

平成27年度第1回川西町総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成27年5月26日(火)  
開会 午後3時30分 閉会 午後5時
- 2 会 場 川西町中央公民館 視聴覚室
- 3 出席委員 川西町長 原 田 俊 二  
川西町教育委員会  
教育委員長 佐 藤 富士雄  
教育委員 奥 山 雅 広  
教育委員 齋 藤 聡 子  
教 育 長 小 野 庄 士
- 4 欠席委員 川西町教育委員会  
委員長職務代理者 山 田 一 郎
- 5 事務局 教育総務課長 緒 形 信 彦  
まちづくり課長 鈴 木 浩 之  
教育総務主幹 有 坂 強 志  
子育て支援主幹 高 橋 久 子  
指 導 主 事 船 木 智 幸
- 6 協議・調整事項  
(1) 川西町総合教育会議運営要綱について  
(2) 大綱の策定について  
(3) 小学校学区再編整備について
- 7 議事の概要  
(1) 開会(事務局)  
(2) あいさつ  
原田町長  
佐藤教育委員長  
(3) 協議・調整事項  
① 川西町総合教育会議運営要綱について(事務局説明【資料2】し、要綱が決定されるまでは、教育総務課長が取りまとめを行った。  
川西町総合教育会議運営要綱(案)について、全委員の同意を得て、決定した。  
② 大綱の策定について(これより原田町長が座長となる。教育総務課長説明【資

料3-1】及び【資料3-2】)

〈座長〉

ただいま、資料に基づき事務局から「教育等の振興に関する大綱」の策定について及び「川西町教育等の振興に関する大綱」の概要(案)の説明がありました。この大綱は、学校教育のみならず、生涯学習の視点も重要となる。各委員の忌憚のないご意見等いただきたい。

〈佐藤〉

3点ほど気になった点がある。

1点目は、広範囲にわたる内容であり、基本理念・目標に8項目あるが、集約できないか。

2点目は、「郷土に誇りを持ち、自然、歴史そして農業を大切にしようとする人間の育成」とあるが、本町の基幹産業は農業であるということは事実であるが、この大綱にあえて「農業を大切にしようとする人間の育成」というのは、そぐわないのではないか。

3点目は、「まちを支える人材の育成」とあるが、基本理念が「持続可能なまちを担う川西人の育成」とあるのだから、具体的な内容とするべきではないか。

〈事務局〉

1点目の、もっと集約できないか。という点については、今回は考えられることを羅列して記載したところであり、ご検討いただきたい。

2点目の農業の表記については、やはり町の基幹産業であること、川西町といえば農業、その川西町で育つという観点から、農業について表記したところである。

3点目のまちを支える人材の育成については、児童、生徒のみならず、地域コミュニティの観点、まちづくりを担える人材育成、生涯学習の観点からも幅広く考えなければならないと考え、表記したものである。

〈座長〉

「自他の「いのち」を尊重し、仲間とともに社会を創造する人間の育成」は、まちを支えるということになり、「まちを支える人材の育成」と重複するのではないか。また、「自他の」は不要ではないか。

人は財産であるという考えのもと、「人材」は、「人財」と考えている。地域を支える、誇りをもって生活する貴重な財産として、町民を大切にするまちづくりというものを目指したいと考えている。

基本理念・目標は、集約できるところは集約して表記できると考える。

〈小野〉

この「農業」という表記については、私が強く思うところであり、この川西町からは「農業」という視点は、外せないのではないかと考えます。

今小学校では稲作を体験しているところだが、これまでは秋に収穫しもちつきをし、みんなでおいしく食べる。というところで終わっていたのですが、

今後販売まで取り組んでみたいと考えている。6次産業の視点も養われるものと考えられる。

今後食味コンクールの小学校部門にも参加してみたい。

これらのことから、「農業」を入れたいと考えます。

「まちを支える人材の育成」については、私の教職員生活の反省も含めてなのですが、これまでの学校教育においては、一生懸命勉強して良い成績を修めて、大学に入って、というところに重きを置いていた。しかし、地元には就職先が無いと現状もあり、本当に今までの教育で良いのだろうかという思いがある。今後子どもたちにどの様な思いが根付けば、この川西町を支える人材となるのか。ということもあり、目標として表記したいと考えたところである。

具体的な活動として、現在全校で取り入れたコミュニティ・スクールがその一翼を担うものと考えている。

#### 〈佐藤〉

「農業」については、自然、歴史、農業と並列であるが、歴史的には小松地区は宿場町であったわけだし、農業と表記するよりは、地域の産業という事でも良いのではないか。

「まちを支える人材の育成」は、理念に「持続可能なまちを担う川西人の育成」とあるので、集約できると考えます。

#### 〈齋藤〉

子を持つ親としては、たくさん勉強して地域に貢献できる人材となってほしいと願う親は多い。いずれ川西町に帰って来てほしい。地元に戻って来たいと思える川西町になってほしい。将来的には川西町で何か起業できるような環境となってほしい。

#### 〈座長〉

5月3日に町の成人式を実施したところだが、7～8割は地元に戻って来たいとの思いを持っていたようだ。仕事に就けるかというところが、懸念であるというところであり、いかにその思いを叶えてあげられる町を作れるか。その願いを叶えられる町にしたいと強く思ったところである。

#### 〈奥山〉

今様々なお意見をお聞きしながら、子どもたちに対する思いが強く感じられた。同世代の親の中には、この川西町の将来に危機感を持っている方も多くいるところであり、「持続可能なまち」という部分に強い危機感を感じる。

私の住む地区の中では、若手のリーダーが育っていない、育てていないのではないかと感じる部分がある。その部分でどの様に教育と結び付けていく事ができるか、課題であると思う。そういうことも含めてコミュニティ・スクールの役割は大きいと考える。

視点が広すぎて、何をどのように集約すべきか悩むところである。

### 〈佐藤〉

今奥山委員の指摘で気付かされたが、「持続可能」という言葉には、はっとした。町を担う真の川西人を育てていかなければならないのだと思った。そして、真の川西人を育てるために、以下の目標につながっていくのではないかな。

### 〈座長〉

真の川西人という言葉は大変良いと感じる。

### 〈事務局〉

奥山委員から指摘のあったリーダーの養成については、里の暮らし推進機構と協議しながら、町の交流人口、移住定住を進めたいと考え、これまで団体への交付金を、個人への交付金とできないか、まちづくり課で検討中である。

個人で考える人を募り、その人の事業に他の人が参加するという形態となれば、個人で手を挙げた人が自然発生的にリーダーとなることも想定される場所です。

教育の話と地域づくりの話では共通点が多く、マイスター養成講座を年10回ほど開催しながら若者が町に興味を持ち、地域づくりに積極的に参加しやすい環境を整えているところであり、参加者は地区から後押しを受けた者が多く、今後の地区のリーダー的存在になり得るものと考えられる。

課題としては、学習した内容を発揮する場が無い、仲間と情報交換等で集える場所が無い事が問題であり、持続できない状況になっていると考えている。

### 〈座長〉

子育て環境という観点からだが、SNSやスマホ、ゲームなど人と人とのコミュニケーションを阻害する要因に対して、何らかの対策を考えなければならないのではないかと考えている。先進事例では、自治体が条例で9時以降は、スマホや携帯電話を使わせないなど定めたところもある。

コミュニケーション能力不足は、まちづくりの大きな障害になると考える。

### 〈佐藤〉

関連してだが、「仲間とともに社会を創造する」にはリーダーが必要だし、「コミュニケーション能力を持った人間育成」にも、「幅広い知識と教養を身に付け、主体的に社会に参画しようとする人間」にもリーダーが必要と考える。また、家庭環境の変化の話も出たが、地域の変化もある。リーダーの育成、養成という視点が必要不可欠ではないかな。

### 〈事務局〉

今教育の現場では、5教審から6教審へ変わるところであり、キーワードは「つなぐ」、「命、学ぶ、地域」、「知、徳、体」である。大綱案では、様々なことが盛り込まれ、いわゆる幕の内弁当状態であるが、やむを得ない事でもあると考えている。それでも、川西らしさが感じられるものとしたいと考

える。

ゲーム、パソコンなどは、やりすぎると脳に異常が見られるようになる。ただし、それらを解決するには教育現場だけでは対応しきれず、経済界でも取り組まなければできないと研修で学んできた。行政も何らかの対応を考えなければならぬのではないかと考える。

#### 〈座長〉

話題が様々なところに飛び、幅広い内容となったが、本日は様々なご意見をいただき、次回の会議まで事務局でまとめていただく。

ゲームでもアニメでも、夜中においても放送しているなど、商業ベースに乗せられていると感じる。

#### 〈齋藤〉

ゲーム、スマホなどは、子どもだけではなく、その子の親世代も絶えず使用している状況が見られ、子どもにマナーを教えようとしても、親がマナーを守っていない状況では、指導できるものではない。

親の意識も変える必要があるのではないかと考える。

#### 〈小野〉

学校は、大人の社会の縮図だと思われる。機器を親が手放せない状態でありながら、子どもに対してのみ規制するというのは、難しい。

様々な情報が入ってくる事は、防ぐことはできないわけで、今はそれらの情報を精査し、処理しなければならない状況なのだろうと考える。

#### 〈座長〉

先ほど話した、ゲーム、スマホ、携帯電話を禁止する条例を定めた自治体では、午後9時以降の使用を禁止したそうです。その中で出ている意見として、LINEに返答する必要がなくなった、チェックすることがなくなった事により気が楽になった、自由な時間ができた。など、子どもの喜ぶ意見も出ているという事で、何らかの対応を考えるべきではないかと考えているところである。

提案であるが、「家庭の日」、「教育の日」等設定しながら、家族でのコミュニケーションを促す、読書を促すなど子どもから大人までが勤しむ事を目標とするなど取り組んでみてはどうか。

#### 〈小野〉

昨年度県内でも動きがあり、小中高のPTA活動において今の情報機器の扱いについて、家庭で、家族で考えようという提案がなされ、各地区、学校でスローガン等定めながら取り組んでいこうということが進められている。

しかし、今の流れは止まらない、止められないと考えられる。安全確認など非常に便利な部分もあるし、今後小学校の授業にタブレット端末を利用した学習方法なども取り入れる予定もある。

#### 〈佐藤〉

便利なものであり、現代社会から取り除くことはできない。使い方、利用

の仕方、マナーをしっかりと教えることが重要である。町長の提案に取り組んでみる価値はあると思う。

〈座長〉

賛否両論出てくると思う。現在の状況に一石を投じる事となるが、喧々諤々の議論をしてもらい、現状を野放しで良いのか考えてもらいたい。

〈小野〉

リーダーを育てるということは、非常に重要である。年齢を重ねたからか、今の若者は、という思いもあるのかもしれないが、リーダーが育っていないと感じる。どういう仕組みを作ったらリーダーが育つのか、9年間の義務教育の中でリーダーを育てるプログラムも考えなければならないのではないかと感じている。

〈佐藤〉

昔のリーダーは、他の生徒から全面的に支持を得られていたが、今は、突出していると、かっこ悪いというような風潮も感じられる。逆にリーダーの足を引っ張るような考えを持つ者もいるようだ。

それを考えると、リーダーは常に疲れると思うし、やりたくないと思う者が出てくるのもしょうがないのではないか。しかし、現在の22歳位の子が高校生のとき、5校で生徒会長を努めた。その子達は、中学生のとき川西第一中学校で生徒会活動を行っていた子達であり、中学校での学び、楽しかったという思いが、高校に行って発揮されたのではないかと考えている。

〈座長〉

真・川西人は、リーダーとなるべき人なのではないか。

〈小野〉

大綱は、どうしても幅広くならざるを得ないのだろう。

〈佐藤〉

教育基本法の趣旨に則れば、そうならざるを得ないのだろう。しかし、その中でも川西町独自色を出すべきである。

〈座長〉

目標は、3～5ほどに集約して、キーワードは「リーダー」、「まちづくり」としながら、基本理念・目標としたい。

〈佐藤〉

具体的な施策も合わせて考えていった方が、進めやすいのかもしれない。

〈座長〉

大分時間も経過したことから、協議・調整事項については、以上とします。

③ 小学校学区再編整備について（教育総務課長説明【資料4】）

犬川小、高山小、玉庭小、東沢小校区において、小学校学区再編検討委員会を設置し、検討スケジュールにより検討を始めることについて、全委員の了承を得た。

課題としては、次の点があげられた。

- ・ 町の人口ビジョンがどのようになっているか、反映させて考えなければならぬ。
- ・ 地方は、簡単に消滅するものではないが、無くなった地域は、全て先に学校が無くなっているという状況があるようなので、その辺も考慮してほしい。

(4) その他

7月～8月の間で次回の総合教育会議を開催することを確認した。

(5) 閉会